

# 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和六年度九月 入賞句一覧 投句数 六百八十句

度会 さち子 選



特選

水分の句碑の白文字秋の風

不破郡垂井町 久保田 紘義

水分といえ、このあたりではひるがの分水嶺だろう。そこに立つ太平洋と日本海に分けた矢印の碑の文字は太く白い。そこに句碑があつたかどうか。分水嶺は、他にもあるからここでは知らないかもしれないが、二つに分かれゆく、水陽炎のゆれる水も浮いている落葉も、その先は知らない。海に出るまでどんな行脚を重ねることか。碑の白文字は、秋風によつてますます白く、水音はますます清らかに澄む。

新涼の旅駅ごとにちがふ風

本巢市 小泉 裕子

旅の列車。降り立った駅とその周りの風景と人。近年は同じような作りの駅舎が多くなったが、駅に集まる人の話し声も、行き交う人も、駅前通りの様子も、そこに吹く風も匂いも太陽の光も、駅ごとに異なる。どの地のどの駅にもそれぞれの歴史があり、木椅子一つも同じ光景はない。秋風に誘われた新涼の旅は、ますます旅愁をかきたてる。

半夏雨魚にまぶせる薄力粉

岐阜市 堀江 美州

半夏雨とは半夏生のころに降る雨で、田植えも終わりほつと一息ついた頃に降る。さて、この時期だったらどんな魚だろう小鮎かもしれない。唐揚げにするのか、いや小鯿の南蛮漬けつてこともある。雨音を聴きながら一匹ずつに小麦粉をまぶす。魚の匂い、粉の手触り、まぶした魚の手触り、やがて油のはじける音と匂いが厨にあふれる。豊かな時間がここにはある。

秀逸

せせらぎも風も加へて夏料理

大垣市 村瀬 佐智子

炎天へ十八きつぷの途中下車

兵庫県神戸市 蔵田 ひろし

八月や鉄塔兵士めく夜半

大垣市 小林 研

アスリート汗の拳を揚げ吠える

大垣市 田中 雅子

立秋や風が風よぶ田舎道

大垣市 久保田 悟義

百日紅花の重さの隣家まで

本巢市 小泉 裕子

冷奴大葉鯉節雑魚昆布

大垣市 田口 貞善

一分の黙禱八月甲子園

大垣市 すみ乃さく羅

白日傘ゆるり谷中の築地塀

神奈川県横浜市 龍野 ひろし

空に書く草書のやうに踊りの手

埼玉県さいたま市澤田 紫

## 入選

閉店の店主残した凌霄花

大垣市

米山 春江

夜の蟬午前三時の金メダル

大垣市

香田 末代

砂浜の返す波音星月夜

岐阜市

古田 静子

吾亦紅風の揺らして炎たつ

大垣市

水谷 義雄

座り癖のこるソファーよ秋の風

大垣市

北浦 典子

解体の古アパートに秋風鈴

東京都新宿区

花澤 ちいこ

初めてのマニキュア見せて星祭

大垣市

小林 研

炎天に出るにいくばくかの決意

大垣市

浅野 翔泉

沈みゆく西日の入るや長廊下

大垣市

松岡 みつ

夢にまで河鹿の声や旅の宿

大垣市

浅井 高男

落鮎のくねりて白腹宙に舞ふ

大垣市

石垣 珠泉

秋出水道も畑も水鏡

不破郡垂井町

傍島 法苑

吟行を終へて取り合ふ草虱

兵庫県神戸市

岸下 庄二

暫くは花野に風のかたちかな

兵庫県姫路市

三木 崇弘

黄昏て憤怒の相や積乱雲

京都府京都市

石田 俊雄

## 選者吟

あきつ舞ふ橋の向かうの草の丈

さち子



## 一般の部